

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	地域の母子保健状況が改善される。
(2) 事業内容	<p>事業目標として「保健行政区を中心に地域保健システムが機能することにより妊産婦や乳幼児が適切な保健サービス（継続ケア）へアクセスできる」ことを掲げ、コンポンチャム州ストゥントロン保健行政区で母子保健支援を行っている。第1期である今期は事業の立ち上げを中心に行っている。</p> <p>今期前半（2014年10月20日～2015年3月31日）の活動内容は以下のとおりである。尚、以下の数字（(ア) ①、②…）は、日本NGO連携無償資金協力申請書、4頁～7頁目、「(3) 事業内容」欄の各番号と対応する。</p> <p>尚、主に活動（ウ）、（エ）で対象としている3保健センターのうち、Dong Kdar 保健センターを支援対象モデル保健センターから外すこととした。理由は、Dong Kdar 保健センター長が保健センターや保健ボランティアに支払われる活動費用について同意をしなかったこと、また、当保健センター長が自身に対する金銭を暗に求めてきたことによる。</p> <p>Dong Kdar 保健センターに代わり新たに別の保健センターをモデル保健センターとすべく、中間報告書提出日現在、事業変更承認申請書の提出準備中である。Dong Kdar 保健センターに代わる新保健センターでの活動については、3月より自己資金にて活動を開始している。保健センター入れ替えに関する詳細は、近日提出予定の事業変更承認申請書を参照されたい。</p> <p>尚、Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外し、活動を中止したのは本年2月であるため、事業開始から本年2月までは当該保健センターも支援対象モデル保健センターとして事業を行っていた。ただし、ストゥントロン保健行政区内の全保健センターが対象の活動（主に（イ）保健人材能力強化（助産師）活動）については、引き続き Dong Kdar 保健センターも支援対象とする。理由は、事業目標である「地域の母子保健状況が改善される」ことの達成には、ストゥントロン保健行政区全体の助産師のスキルを改善することが重要であるためである。そのため、活動毎に Dong Kdar 保健センターも支援対象であるかどうか（もしくは該当しないか）記すこととする。</p> <p>上記の事情により、事業全体としては、やや進捗が遅れている。</p> <p>(ア) 地方行政（保健行政区）能力強化</p> <p>① 3日間に亘りファシリテーションスキルトレーニングを開催した。保健行政区スタッフ、保健センタースタッフ及び当団体現地スタッフが会議やトレーニング等をより円滑且つ効率的に進められることを目的とし、ファシリテーションの定義、良いファシリテーターの役割と責任、様々な場面におけるファシリテ</p>

ーション術等について学んだ。計 11 名が参加した。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。)

また、保健行政区スタッフの会議運営スキル、ファシリテーションスキルの評価を行うため、月例の保健行政区での保健センター長会議に参加し、チェックリストを使用して評価を行った。(Dong Kdar 保健センター該当せず。)

- ② 3 日間に亘り計画立案研修を実施した。目的は、今後 3 年間の事業計画について、当団体现地スタッフだけでなく、保健行政区スタッフ等と共に考えることで、より現状に合った事業計画を立案し、共に事業の実施・管理を行うこと、また保健行政区スタッフ等に事業に対するオーナーシップを持ってもらうことであった。主な内容は、計画立案の手法、PDM (プロジェクト・デザイン・マトリックス) に関する説明、年間計画策定であった。保健行政区スタッフ、保健センタースタッフ、当団体现地スタッフ計 8 名が参加した。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。)
- ④ 保健行政区事務所内設備支援を実施した。支援対象であるストウントロン保健行政区がより円滑に業務遂行できるようプロジェクター、投影用スクリーン、ノートパソコン、折り畳みテーブル、パイプ椅子を寄贈した (自己資金)。保健行政区に対するヒアリング結果を元に寄贈物品を決定した。(Dong Kdar 保健センター該当せず。)

(イ) 保健人材能力強化 (助産師) 活動

※事業目標である「地域の母子保健状況が改善される」ことの達成には、ストウントロン保健行政区全体の助産師のスキルを改善することが重要であるため、Dong Kdar 保健センターも引き続き支援対象とする。また、当活動への助産師の参加にあたっては、Dong Kdar 保健センター長が責任を負い、組織的に支援を受け入れることで Dong Kdar 保健センター長より合意を得ている。

- ① 保健行政区母子保健担当者と共にストウントロン保健行政区内の全保健センターの准助産師、非正規スタッフ (Floating staff) 計 18 名を対象として、助産師能力アセスメントを実施した。(非正規スタッフとは、正規の公務員ではないが、人材の薄い保健センターで常勤の医療スタッフとしてサービスを提供する者のこと。助産師の資格がなくても助産業務を行う者もいる。) 助産師育成計画策定に向け、現在の助産師の能力とサービスの質を知ることが目的として、筆記試験及び実技試験を実施した。筆記試験については、准助産師として持つべき出産や産後健診に関する選択式の試験を行った。実技試験については、妊婦健診及び家族計画 (産間調節) に関して、准助産師による

患者に対する診察の様子を観察し、チェックリストを使用して知識やスキルの確認を行った。以下に結果を示す。

-	筆記試験	実技試験	
		妊婦健診	家族計画
-	-		
平均点 (%)	78%	39%	51%
合格点 (%)	70%	85%	85%
合格点 達成者数	14名	0名	0名

対象者数：18名

合格ラインについては、正助産師である当団体现地スタッフが定めた。今回のアセスメント結果から言えることは、助産知識については比較的高そうであるが、臨床においては知識やスキルを適切に実践できていない助産師が大多数であるということであった。

また、助産師育成計画策定ワークショップを3日間開催し、助産師育成計画を策定した。ワークショップ初日には、日本から吉野八重専門家に参加いただき、育成計画に対してアドバイスをいただいた他、講義を行っていただいた。上記アセスメント結果も共有し、育成内容に反映した。ワークショップには、州保健局、州病院附属トレーニングセンター、州立トレーニングセンター、保健行政区より関係者が参加した。

(ウ) 保健施設の機能強化活動

- ① 保健センター整備計画について保健センター長との話し合いを開始した。当初想定では、保健行政区担当者と整備計画を策定し、保健センターと共有する予定であったが、保健センターのニーズが最重要であるとの考えから保健センターと整備計画を策定し、保健行政区に共有する形とした。(Dong Kdar 保健センター含まず。)
- ② ストゥントロン保健行政区内の11保健センターの内、分娩サービスを提供する10保健センターに対し、助産のための医療器具を提供した(N連供与品)。正助産師である当団体现地スタッフが各保健センターを訪問し、助産師に対し各器具の使用法を説明した上で配布した。(ストゥントロン保健行政区内の全保健センターが対象であるため、Dong Kdar 保健センター含む。)
- ④ 保健センター運営改善のための保健センタースタッフ・保健ボランティア会議支援の事前準備として、保健ボランティア及び保健センター運営委員会の現状を把握するため、支援対象の保健センターを対象に調査を行った。保健センター長より保健ボランティア及び保健センター運営委員会の活動状況や保健センターでの会議の頻度について聞き取り調査を行った。その結果、どの保健センターにおいても保健ボランティアも保健センター

運営委員会もあまり活発に活動している様子ではないことが分かった。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。)

また、現在の保健ボランティアの知識レベルを測るため、支援対象保健センターで保健ボランティアの能力アセスメントを行った。保健ボランティアを対象として保健知識一般及び母子保健知識に関するテストを実施した。その結果、保健知識一般の平均点は 75%、母子保健知識の平均点 89%という結果であった。

(Dong Kdar 保健センター含まず。)

更に保健センター運営に関する責任者である保健センター運営委員会を対象に 2 日間に亘りトレーニングを実施した。講師は副保健行政区長が担当した。保健センター運営委員会の役割と責任の説明を中心にトレーニングを実施した。(Dong Kdar 保健センター含まず。)

(エ) 地域住民の意識向上活動

- ④ 保健教材である 2015 年版保健ダイアリを作成し、保健センタースタッフや保健ボランティア等に配布した。保健知識向上に役立つ妊婦健診や産後健診、子どもの栄養や予防接種等の母子保健に関する内容を含み、写真や挿絵を多く使用して、分かりやすい内容となるよう心掛けた。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。) また、保健メッセージの書かれた保健教育ポロシャツを作成し、配布を開始した。(Dong Kdar 保健センター含まず。) その他、村での保健教育で使用する保健教育フリップチャート(紙芝居)の作成を開始した。フリップチャートは 4 月に 2 トピック分が完成予定であり、他トピックについても随時作成を開始する。(Dong Kdar 保健センター含まず。)

(オ) その他

- ・ 支援対象村と比較対象村に住む合計 180 名の女性を対象として、事業実施前のベースライン調査を実施した。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。)
- ・ 州保健局、保健行政区、支援対象 3 保健センターのスタッフを対象に事業説明会を実施した。当団体の事業や目的について関係者に理解を深めてもらうことを目的として説明を行い、ベースライン調査結果も共有した。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。)
- ・ 支援対象 3 保健センターにおいて、保健ボランティア、保健センター運営委員会を対象に上記説明会とほぼ同じ内容の事業説明会を実施した。(Dong Kdar 保健センターをモデル保健センターから外す前に実施したため、Dong Kdar 保健センター含む。)

<p>(3) 達成された効果</p>	<p>今期前半に実施した活動に付随するチェックリスト及びテストの結果を以下に記す。いくつかのトレーニングや当団体からの助言を経て向上したものを除いて、ほとんどはベースラインデータとしての数値である。</p> <p>(ア) 地方行政（保健行政区）能力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月より開始したファシリテーションスキルチェックリストの結果は、2月67点、3月83点であった。1年目の目標値は70点であるため、中間報告の時点で目標を達成している。トレーニングと当団体からの助言の成果と考える。このまま下がらないよう引き続きモニタリングを継続する。 ・ 2月より開始した会議運営スキル、情報交換の程度（ボトムアップ情報利用を含む）を測るチェックリストの結果は、2月67点、3月69点であった。1年目の目標値は70点であり、目標達成まであと少しであるため、保健行政区スタッフに改善のための助言を行う等して目標達成を目指す。 <p>(イ) 保健人材能力強化（助産師）活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「(2) 事業内容」欄に報告のあるとおり助産師能力アセスメントを実施した結果、保健センター助産師の能力やサービスの質を把握することができた。データは「(2) 事業内容」欄を参照。 <p>(ウ) 保健施設の機能強化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健ボランティア、保健センター運営委員会の活動状況や知識レベルを把握することができた。保健ボランティアに対しては保健知識一般及び母子保健知識に関するテストを実施し、彼らの現在の知識レベルを把握することができた。 <p>(エ) 地域住民の意識向上活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村での活動は準備段階で、まだ本格的に開始していない。
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>(ア) 地方行政（保健行政区）能力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き保健行政区スタッフのファシリテーションスキル、会議運営スキルの確認を定期的に行う。 ・ 保健行政区スタッフと共に保健センターに対する定期的なモニタリング評価を実施する。 ・ 保健行政区の保健センター長とのネットワーク会議・リファラル強化支援を実施する。 <p>(イ) 保健人材能力強化（助産師）活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助産師育成計画に沿って助産師トレーニングを実施する。全員を対象とした講義形式の研修は4月、実技を中心に学ぶ病院での実践的な研修は6月に実施予定である。 <p>(ウ) 保健施設の機能強化活動</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健センターと共に保健センター整備計画を策定する。 ・ 引き続き母子保健を中心とした診療室、医療機器や器材の支援を行う。(保健センター改築含む) ・ 保健センターに対する訪問指導、抜き打ち検査を実施する。 ・ 毎月の衛生等のモニタリングと保健センター運営改善のためのスタッフ・保健ボランティア会議支援を実施する。 ・ トレーニングを受けた助産師のモニタリング・フォローアップを実施する。 <p>(エ) 地域住民の意識向上活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村での保健教育実施に向け、保健センタースタッフや保健ボランティアに対するファシリテーショントレーニングや、保健知識を学ぶワークショップを実施する。 ・ 引き続き保健教材の作成と配布を行う。 ・ 村での保健教育を実施する。 <p>(オ) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に活動(ウ)、(エ)で支援対象としている3保健センターのうち、モデル保健センターから外れることになった Dong Kdar 保健センターに代わる新保健センターでの活動については、3月より自己資金にて活動を開始しており、スケジュールを凝縮して事業実施予定である。詳細については近日提出予定の事業変更承認申請書を参照されたい。
--	---